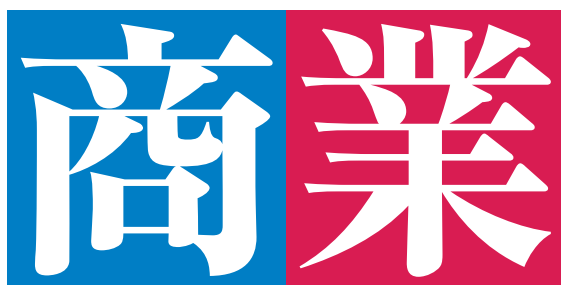
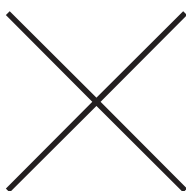


東京駅
新宿駅
渋谷駅
池袋駅
銀座駅
大手町駅
三越駅
日本橋駅
北千代駅
品川駅
新橋駅



大改造が進む東京の注目駅を追う

駅激戦区



商業施設新聞ハンドブック

秋葉原駅
目黒駅
浜松町駅
上野駅
町田駅
有楽町駅
田町駅
蒲田駅
中野駅
吉祥寺駅
立川駅
飯田橋駅
恵比寿駅
錦糸町駅
下北沢駅
原宿駅
六本木駅
八王子駅
浅草駅
豊洲駅
赤羽駅
多摩センター駅
表参道駅
自由が丘駅
二子玉川駅
調布駅
虎ノ門駅
勝どき駅



銀座駅

日本を代表する商業地、銀座。地価公示価格では、東京都中央区銀座4丁目が常にトップを記録しているほか、軒並み銀座地区が上位を占める。その銀座エリアでは、2020年の五輪開催に向けてランドマークと位置づけられる大型の商業施設が相次ぎ開業する予定だ。それにより銀座ブランドにいつそう磨きがかかるのは確実だ。

高級ブランドからファストファッションまで集積

銀座駅は東京メトロ銀座線、日比谷線、丸ノ内線が乗り入れるほか、有楽町駅からの来街者も多い。国内外からの買い物客が訪れ、百貨店などが駅から直結するため買い回りもしやすい。この駅からの流動客を取り込むため、丸ノ内線銀座駅の改札前にはエチカフィット銀座がある。同施設にはユニテッドアローズなど人気ブランドが揃っている。

だが主戦場は駅の外だ。三越、松屋、松坂屋などの百貨店の旗艦店、そしてエルメス、グッチ、コーチ、シャネル、アルマーニ、ダンヒルなどの高級ブランドが立ち並び銀座を象徴する。また、外堀通りと晴海通りが交わる数寄屋橋交差点には“銀座のゲート口”として、ソニービルがあり、まもなく開業50年を迎える。このほかに商業ビルではメ

銀座駅データ

1日平均乗降者数	24万5300人
乗り入れ路線	東京メトロ（銀座線、丸ノ内線、日比谷線）

ルサ、コマツギンザ、銀座コアなどがあり、多彩なブランドやショップが入居し、エリアを彩る。さらに11年10月にはルミネ有楽町店が誕生し、新たな回遊性も生んだ。

銀座といえば、かつての「みゆき族」に象徴されるようにファッションの街であり、そのDNAは現代にも引き継がれている。裏通りに入ればビームスやシブプスなどのセレクトショップも数多い。さらに新たな潮流として、相次ぐファストファッションの進出が若者を呼び込んでいる。とりわけ08年のリーマン・



銀座の中心である銀座4丁目交差点

銀座駅周辺の主な商業施設

アップルストア銀座
アルマーニ
エルメス
銀座コア
銀座三越
コマツギンザ
シャネル
ソニービル
プランタン銀座
ブルガリ
松屋銀座本店
メルサ
ユニクロ銀座店
和光

ショックに前後して、H&M（08年9月）、アバクロンビー＆フィッチ（09年2月）、フォーエバー21（10年4月）、GAP（11年3月）などがメーンストリートである中央通り沿いに進出した。また、ユニクロは12年3月、当時世界最大となる売り場面積約1500坪の「ユニクロ 銀座店」をオープンした。さらに同年3月には銀座5丁目の旧ユニクロ銀座店跡地に店舗面積450坪で「ジューユー銀座店」をオープンするなど、ファストファッションの集積地にもなっている。

銀座にはファッション以外の側面もある。例えばアップルストアは今や街の顔である。また、銀座は高級ブランドを目的に訪日外国人客が大挙して訪れるが、それを見越して家電量販店のラオックスが進出した。さらには1300万人達した訪日客を取り込むため、百貨店を中心に免税店対応が急速に拡大している。

大型開発が続々、五輪へ商業集積が急ピッチ

さらにエリアは次の時代へと動く。怒涛の開発ラッシュが進展中で、新しい銀座が誕生する。その先陣を切って登場したのが、銀座1丁目にオリックスが開発した「KIRARITO GINZA」

だ。結婚式、結婚記念日、誕生日など、“ハレの日”をテーマに物販、飲食、サービスの専門店を充実させた商業施設で、地下3階地上12階建て延べ1万6582m²に、日本初・日本最大級・銀座エリア初を含む全52店で構成する。

そしてJ.フロント リテイリング、森ビルなどは銀座松坂屋跡を中心とした延べ床面積約14万m²の「銀座6丁目再開発プロジェクト」を進めている。売り場4万6000m²と銀座エリア最大級の都市型商業施設に加え、大規模オフィス、「観世能楽堂」などで構成するなど、東京を代表する国際的な商業・業務・観光拠点を目指す。

また、三越の前にはサッポロ不動産開発らによる「銀座5丁目再開発計画」が地下2階地上11階延べ7000m²規模で進む。地下1階は従前同様に、銀座駅や隣接する商業施設「銀座コア」とそれぞれ連絡通路で接続する。これまで入居していた日産自動車やサッポロライオンが再入居する予定だ。

銀座・数寄屋橋交差点では東急不動産が「(仮称)銀座5丁目プロジェクト」を15年度に開業する。地下5階地上11階建て延べ約5万m²の規模で伝統工芸の「江戸切子」をモチーフとした外観デザインに、都内最大のロッテの免税店や東急ハンズの新業態など計120店が出店する。

銀座における開発はこれにとどまらない。このほかに、ミキモト本店建て替えや伊東屋本店建て替え、三菱商事による銀座2丁目プロジェクトなど、銀座はさらなる変貌を遂げる。

ホテル出店も積極的

訪日外国人、そして20年の五輪開催を見越して、ホテルの出店もここへきて活発となっている。銀座1丁目地区では、ダイワロイアルが客室数200室規模の「(仮称)ダイワロイアル銀座1丁目計画」を計画し、15年3月の開業の予

定だ。サンルートが客室数165室の「(仮称) ホテルサンルート銀座」を15年秋開業に向けて詳細を詰めている。常和ホテルは客室数306室の「(仮称) ホテルユニゾ銀座1丁目」を15年1月に開業したほか、銀座7丁目地区にも客室数226室の「(仮称) ホテルユニゾ銀座7丁目」を出店し、16年4月に開業する予定。また、銀座5丁目では三井不動産が329室の「三井ガーデンホテル 東京」を14年12月に開業した。さらには相鉄グループの相鉄インは、16年秋に286室の宿泊特化型ホテル「(仮称) 相鉄フレッサイン銀座7丁目」を出店するほか、銀座8丁目新築

計画にはホテルを建設する案が挙がっている。銀座地区は従来、慢性的な宿泊施設の不足感があつたが、徐々に解消される見通しだ。

東京五輪開催に向けて、新たな交通機関の整備構想も持ち上がっている。バス高速輸送システム(BRT)と呼ばれる、連節型バスの導入である。銀座を起点に晴海通り活用ルート、みゆき通り・環状2号ルート、海岸通・環状2号活用ルートが候補として挙がっている。これを中央区ではBRTと平行して、将来的には次世代型路面電車システム(LRT)の導入も検討されている。



書 名駅激戦区 人×商業
 体裁・頁数B5 判 オフセット刷り 112 頁
 定 価4,700 円＋税、〒共